

## これまでの取り組みと課題

### 1. 主な国・府の動き

#### 【国】

昭和 62 年 3 月	地方公共団体における国際交流の在り方に関する指針
昭和 63 年 7 月	国際交流のまちづくりのための指針
平成元年 2 月	地域国際交流推進大綱の策定に関する指針
平成 7 年 4 月	自治体国際協力推進大綱の策定に関する指針
平成 18 年 3 月	地域における多文化共生推進プラン策定
平成 19 年 3 月	多文化共生の推進に関する研究会報告書
平成 21・22 年	多文化共生の推進に関する意見交換会報告書
平成 24 年 12 月	多文化共生の推進に関する研究会報告書
平成 29 年 3 月	多文化共生事例集
平成 30 年 12 月	外国人材受入れ・共生のための総合的対応策

#### 【府】

平成元年 1 月	大阪府国際交流財団設立
平成 4 年 5 月	大阪府国際化推進基本方針
平成 14 年 12 月	大阪府在日外国人施策に関する指針

#### 【市】

昭和 63 年 8 月	河内長野市国際化推進市民懇談会設置
平成 元年 8 月	河内長野市の国際化推進に関する提言
平成 2 年 2 月	河内長野市国際化施策計画策定
平成 4 年 2 月	河内長野市国際交流協会設立
平成 6 年 4 月	米国インディアナ州カーメル市と姉妹都市提携
平成 14 年 4 月	国際交流センター（市民交流センター内）設置
平成 22 年 3 月	国際化施策改訂版基礎調査業務報告書

### 2. 取り組み状況と今後の課題

国際化施策計画に基づき 4 つの施策体系に基づき記載。

#### （1）地球的規模の視野を持つ人づくり

- 地域に在住の外国人などを小中学校に講師として派遣し、外国語・外国文化などの学習
- 大阪府教育委員会及び南河内ブロックの各教育委員会と国際交流協会との連携による多言語進路指導ガイダンス
- インターネット環境を利用した学校における異文化理解学習

#### 【成果】

- ・外国人児童・生徒自らが民族と文化に誇りを持つとともに、日本人児童・生徒が外国の文化を正しく認識し、ともに学び合う教育環境の整備が図られた。

#### 【課題】

- ・外国人児童・生徒が自己のルーツを肯定し、本人の誇りやアイデンティティの確立につ

なげるための、母語の保障や母国の文化に触れる機会のサポート

- ・外国人ゲストによる学校訪問（アウトリーチ）や市民との交流イベント、ホームステイなどによる異文化交流機会の充実

## （２）派遣や受け入れをスムーズにする組織・体制づくり

- 河内長野市国際交流協会（以下、国際交流協会という。）の設置による、行政や関係機関、団体との連携、協力
- 国際交流協会会員を中心とした登録ボランティアの活躍によるホームステイの受入れや日本語サロン、通訳派遣等の体制整備

### 【成果】

- ・国際交流や国際協力、異文化理解の取り組みが進み、官民における様々な事業や活動が充実・発展

### 【課題】

- ・より一層幅広い市民主体の活動の推進や、災害時における外国人市民の支援体制、地域の住民の協力を仰ぐ仕組みの確立

## （３）住民にも訪問者にも魅力のあるまちづくり

- 「外国人のための生活ガイドブック」（英語、中国語、韓国・朝鮮語）を発行し、ごみの出し方等生活にかかわる市政情報についての多言語版の作成
- 観光パンフレットの多言語化による、市内の文化財をはじめとする観光魅力の発信と回遊の促進
- 国際化、多文化共生の拠点として市民交流センター内に国際交流センターを設置

### 【成果】

- ・様々なイベントや活動が活発に行われ、海外からのゲストとの交流や親睦を図り本市の魅力を感じてもらえた。

### 【課題】

- ・国際交流センター機能の充実と市及び国際交流協会のスムーズな連携
- ・市施設や道路等の案内表示・標識の多言語化

## （４）地域の特性・個性にふさわしい国際交流の推進

- 姉妹都市であるカーメル市（アメリカ合衆国インディアナ州）との友好訪問団の相互派遣や交換職員事業などの実施

### 【成果】

- ・市民の国際理解や国際親善の取り組みが進んだ。

### 【課題】

- ・地域における外国人市民との共生による豊かな地域社会の創造につなげるために、姉妹都市をはじめとした様々な国との交流を、より多くの市民にとって身近なものとする事と。